

主な意見、要望等	市長、担当部署の回答、対応状況等	担当部署	最新の進捗状況等
町会加入世帯の減少。町会に入るメリットがない。入っても入らなくてもサービスは受けられる。	加入率向上や地域コミュニティ活性化などの取組みについて、好事例を取りまとめ、校区長や町会長に情報提供するよう担当課に指示している。	自治振興課	今後もそれぞれの事情に応じて個別に対応するとともに、校区長会議等を通じて適切に情報提供を行ってまいります。
空き家が増えている、または空き家を壊して駐車場になっている。地主への対策。	市民から寄せられた情報や相談案件について、所有者等に情報を提供し、適正管理の啓発を行っている。倒壊等により周囲の環境に悪影響を及ぼすおそれのある空家に対しては除却を促進し、市民が安全・安心で、快適に暮らせるまちを確保するため、除却費用の一部を補助している。市内にある空家に関する様々なお悩み（管理、相続、有効活用）に対応するため、隔月で「空き家相談会」を開催している。空家の利活用についてお悩みの所有者に対し、空家等利活用に関する協力事業者を紹介し、解決を支援している。	住宅政策課	
商店街の活気がない。活気あるまちづくりを。	庁舎移転により人の流れの変化が予想される。まちづくりや商店街の今後について色々と課題がある。地元商店街組合や商工会議所などと共に「どんチャカフェスタ」を企画・開催するなど、集客や賑わいづくりを行い、地域の活性化につながる事業を実施している。	産業政策課	商店街の活性化に向けて、岸和田TMOが実施する「どんチャカフェスタ」や岸和田商店街連合会によるプレミアム商品券事業、各商店街のイルミネーション事業及び歳末イベント等に対して補助金を交付するなど、継続的な支援を実施しています。
人口を増やす、移住者を増やす政策を。	子育て世代の経済的支援のため、2学期から給食費無償化を実施する。また、本市のイメージ戦略として「スポーツのまち」を掲げている。従来のスポーツに加え、スケートボードやBMXなどの振興に取り組みたい。	企画課	令和8年度施政方針に基づき、「子育て世代に選ばれる岸和田」、「教育の充実」及び「スポーツによる地域の活性化」に資する各種施策を推進しています。
岸和田城を観光資源に生かし切れていない。城周辺で飲食できるところ・宿泊施設がない。10台くらい止められるバスの駐車場がない。	現庁舎の跡地利用を考えていきたい。岸和田城だけではなく、周辺地域一体としてのまちづくりの観点が重要であると考えている。	観光課	本町エリアにおいて市の補助金を活用した民泊施設がオープンしました。
防災無線を活用して、夕方6時のサイレンの復活を。子どもの安全も考えて。	担当部署には伝えている。要望書あげていただければ。	危機管理課	令和7年9月22日付で中央校区市民協議会より要望書が提出されましたが、下記①及び②の理由により、同年10月7日付で実施は困難である旨を回答済みです。 ①公平性の担保として市全域での実施が必要な施策であり、市内全体における合意形成が不可欠であるため。②多様なライフスタイルへの配慮として住民のライフスタイルの多様化に伴い、過去に多くの苦情が寄せられ中止した経緯があるため。
縦割りでなく横ぐしで仕事して欲しい。	ご意見として承る。現在、市長、副市長及び教育長の特別職は週次のミーティングで情報共有を図っている。	行財政改革課	現時点での直接的な対応はありません。なお、施設再編等の改革課題については、組織横断的なプロジェクトチームにおいて課題解消を推進しています。
新庁舎建設は、スムーズに進めて欲しい。	ご意見として承る。	庁舎建設準備課	
ふるさと寄附で税収アップ。	ご意見として承る。また、企業誘致も考えていきたい。	成長戦略課	ふるさと寄附の返礼品協力事業者は現在108社、返礼品数は約1,545品目へと増加しています。今後も引き続き、事業者の新規開拓を推進してまいります。
図書館を新しく建替えてほしい。陳列の仕方も工夫を。	図書館本館の建替え場所の候補地として、南海浪切ホール、まなび中央公園、本庁舎跡地及び現在地の4カ所が想定されている。	図書館	現在、建設場所等について検討を進めています。
市長として改善しようとしていることあるか。コンビニで証明取るとか。	取れるようになっている。	市民課	
ホームページが見にくい。	市公式ウェブサイトは本年3月にリニューアルした。	広報広聴課	
心技館の有効活用を。地域の意見を聴いて欲しい。	新庁舎への移転時に、現庁舎の跡地利用も含めて判断したい。	総務管財課	心技館につきましては、現在は総務管財課が行政目的を持たない普通財産として建物を管理しています。庁舎の建て替えに伴う現庁舎跡地利用全体の検討と合わせ、今後の活用策を総合的に判断することとしており、それまでの間、日常管理をしてまいります。